

## 4月25日開催第17回『新しい資本主義実現会議』提出資料

東京大学 柳川範之

総論：

・ 経済に構造変化が生じている際には、**生産要素（人、カネ）も、その変化に応じて活躍場所を柔軟に変化させていくことが特に重要**。それによって付加価値生産性もあがり、経済成長にもつながる。

・ **企業そのものの存続よりも、経営者や従業員、そして社内にある資本や資金が、より有意義な形で活動し続けられることが重要。**

・ 環境変化が生じた場合には、**それぞれが活動場所を変え、新たな生産要素の組み合わせにしたほうが活躍できる場合がある**。それが、企業の参入そして退出が必要な基本理由。

・ 企業の参入・退出が円滑に行われることは、経済の活性化にとって重要。

・ 経営者や従業員がより適材適所に動ける社会である必要があり、円滑な労働移動とセットで実現させるべき。**資金もそれによって、より有効活用される。**

各論：

・ 特に**退出を希望する経営者が、退出できないのは問題**であり、円滑な退出を促す仕組みが必要。

・ **経営者保証の見直しはとて重要**性が高い。

起業を行う上での障壁にもなるし

円滑な企業退出の妨げにもなる

退出が遅れれば、結果的に資金の有効活用も妨げられる

- そのためには、金融機関のビジネスモデルの再構築が必要  
経営者保証に頼らない、事業性評価 無形資産評価
- **早期事業再生**：企業が必要なタイミングで活躍の仕方を変化させる  
**私的整理の多数決制度の導入**  
方向転換をタイミング遅れることなく進める
- 経営者の再チャレンジ機会の確保  
従業員だけでなく、経営者の再チャレンジのしくみの構築  
退出の出口に関する適切な情報提供・アドバイスの必要性